

## 子供たちの体力向上に向けて！

＝平成 27 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査報告書～スポーツ庁～

12 月 15 日、スポーツ庁は小学 5 年生と中学 2 年生を対象にした平成 27 年度の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果を公表した。

全国体力・運動能力、運動習慣等調査報告書概要（全日教連要約・抜粋）

### 実技に関する調査

#### 1 体力合計点の経年変化

小学校及び中学校ともに女子が、平成 20 年度の調査開始以降、最も高い値であった。小学校男子は、調査開始以降、最も低い値であった。

#### 2 各種目別の傾向

実技調査の種目別にみた場合、小学校男子の上体起こし、長座体前屈、小学校女子の上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20m シャトルラン、50m 走が、平成 20 年度の調査開始以降、最も高い値であった。一方、小学校男子の握力、立ち幅とび、ソフトボール投げ、小学校女子の握力、ソフトボール投げが調査開始以降、最も低い値であった。（○ … 過去最高値、▲ … 過去最低値）

##### 小学校

##### ● 男子

	握力 (kg)	上体起こし (回)	長座 体前屈 (cm)	反復横とび (点)	20m シャトルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅とび (cm)	ソフトボール 投げ (m)
平成27年度	▲ 16.45	○ 19.58	○ 33.05	41.60	51.64	9.37	▲ 151.27	▲ 22.51

##### ● 女子

	握力 (kg)	上体起こし (回)	長座 体前屈 (cm)	反復横とび (点)	20m シャトルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅とび (cm)	ソフトボール 投げ (m)
平成27年度	▲ 16.05	○ 18.41	○ 37.45	○ 39.56	○ 40.70	○ 9.62	144.80	▲ 13.76

中学校男子の反復横とび、50m 走、中学校女子の上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走、20m シャトルラン、50m 走、立ち幅とびが、平成 20 年度の調査開始以降、最も高い値であった。一方、中学校の男女ともに握力、ハンドボール投げが調査開始以降、最も低い値であった。

##### 中学校

##### ● 男子

	握力 (kg)	上体起こし (回)	長座 体前屈 (cm)	反復横とび (点)	持久走 1500m (秒)	20m シャトルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅とび (cm)	ハンドボール 投げ (m)
平成27年度	▲ 28.91	27.35	43.04	○ 51.63	393.42	85.28	○ 8.01	194.11	▲ 20.61

##### ● 女子

	握力 (kg)	上体起こし (回)	長座 体前屈 (cm)	反復横とび (点)	持久走 1000m (秒)	20m シャトルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅とび (cm)	ハンドボール 投げ (m)
平成27年度	▲ 23.65	○ 23.18	○ 45.55	○ 46.10	○ 290.60	○ 57.79	○ 8.84	○ 167.23	▲ 12.77

#### 3 総合評価の経年変化

小学校女子及び中学校女子においては、総合評価 A・B の割合が平成 20 年度の調査開始以降、最も高く、総合評価 D・E の割合が最も低かった。一方、小学校男子においては、総合評価 A・B の割合が調査開始以降、最も低く、総合評価 D・E の割合が最も高かった。

#### 4 都道府県の状況

上位 5 都道府県と下位 5 都道府県の平均値の差は、小学校及び中学校の男女ともに、平成 21 年度前後でのピーク時から年々縮まってきており、平成 27 年度には、その差は最も小さくなった。

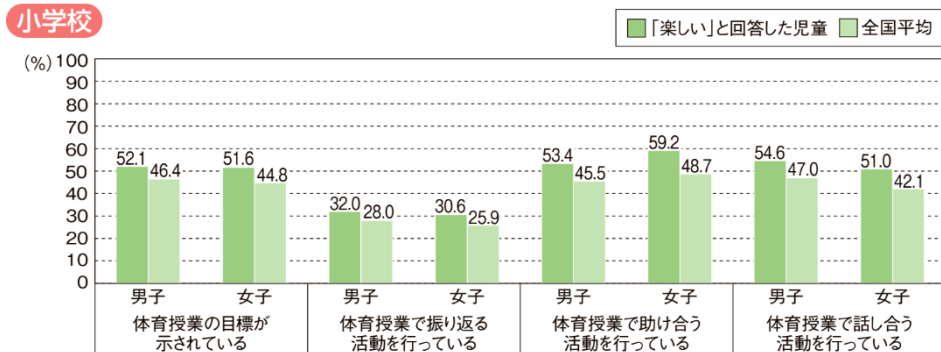
### 運動やスポーツへの意識の高い児童生徒の特徴

体育・保健体育授業の「楽しさ」がもたらすもの

体育・保健体育の「授業は楽しい」と回答した児童生徒は、ふだんの体育・保健体育の授業で、「授業の

始めに授業の目標（目当て・ねらい）が示されている」「授業の最後に今日学んだ内容を振り返る活動を行っている」と回答した割合が全国平均より高かった。また、授業で「友達と助け合ったり、役割を果たすような活動を行ったりしている」「友達同士やチームの中で話し合う活動を行っている」と回答した割合が全国平均より高かった。授業の始めでの目標の提示は、その時間の見通しや学習内容への期待感を与え、振り返りは、次なる課題を明確にし、達成度の確認にも役立つ。また、仲間と助け合ったり教え合ったり、自己の役割を果たすような活動を促すことは、仲間との協力による連帯感や授業へ自主的に取り組む意欲を高めるのに有効である。

【図1-4】「授業は楽しい」と回答した児童の授業の実態についての認識

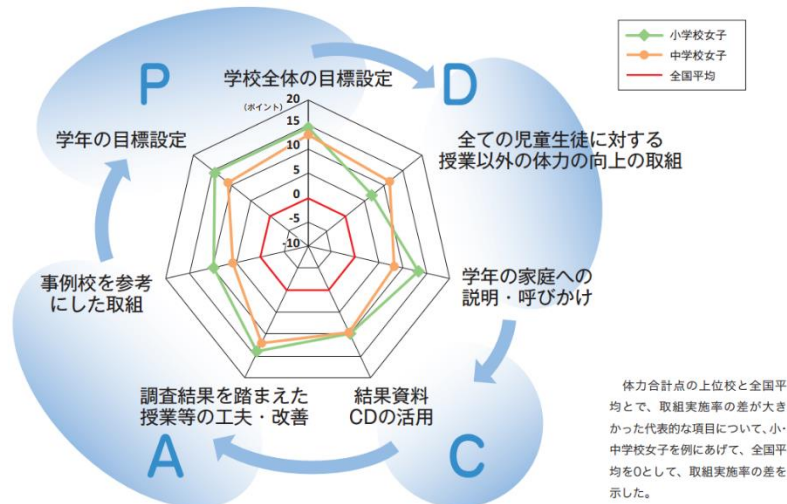


### 運動が苦手な児童生徒の意識

本年度の総合評価 E の児童生徒の意識をみると、「運動が好き」と回答した割合は、小学校では男子が 33.8%、女子が 21.0%、中学校では男子が 23.1%、女子が 9.6%であった。総合評価 E の児童生徒も、少なからず運動やスポーツを「好き」と感じており、特に小学校児童でその傾向が強い。そこで、児童生徒の「好き」を継続させ、体力・運動能力の向上につなげる取組を期待したい。

### 体力・運動能力の高い児童生徒が多い学校の特徴

「体力」上位校においては、体育・保健体育の授業を核とし、学内外で、家庭とも連携しながら、様々な取組を着実に、総合的に実施していることがわかる。体力の向上の取組にあたっては、児童生徒の実態を丁寧に把握し、結果を踏まえた取組を行い、PDCA サイクルが有効に機能していく好循環を形成することが極めて重要である。



(詳しくは、[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/sports/kodomo/zencyo/1364874.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/kodomo/zencyo/1364874.htm))

本年度の調査からは、小・中学校の女子と男子の体力向上の差異や、新体力テストの項目に苦手分野が見られることが示されている。また、意識調査からは、体育の授業において児童生徒に「楽しさ」を感じさせるために、単元ごとや毎時間の目標の設定や学習活動における児童生徒間の関わりや、単元や授業の終わりでの振り返りの位置付けが大切であること等が明らかになっている。更に、学校内外での体力向上について取り組んでいる学校は、全ての児童生徒の体力向上に良い影響を与えていることが指摘されている。

運動が得意な児童生徒はもちろんだが、運動は好きだが苦手である、また運動が嫌いな児童生徒にとっても楽しく学習できる体育の授業や、学校としての体力向上への取組については、今後更に研究を深め、取り組んでいかなければならない。そうしたことが子供たちの体力向上の底上げに繋がっていくと思われる。

全日教連は、学校現場において体力向上に繋がる教育環境の整備、またそれらが児童生徒にとって実効性のあるものとなるよう、関係諸機関に要望していく。